

7月21日・8月3日 旧見付学校「昔の授業体験」 昔の着物ってちょっと暑いね



▲真剣な表情で授業を受ける子どもたち

旧見付学校で小学生を対象に「昔の授業体験」が行われ、2日間で約50人の子どもたちが^{おひら}紺の着物を着て授業を受けました。

参加者は教科書を読んだり、石盤・石筆を使って昔の字を書いたりしたほか、竹とんぼや羽子板、こま回しなど昔の遊びを体験しました。参加した子どもたちは「石盤・石筆は思ったより書きやすかった」「昔の字の形がおもしろかった」と話していました。

8月18日 磐田市消防署親子消防体験教室 ぼくも私もなりきり消防士



▲水消火器を使っって的を狙い、消火体験をしました

消防の仕事について理解し親しんでもらうため、磐田市消防署で親子消防体験教室が開催されました。

参加した子どもたちは消防職員と一緒に、煙や消火器、ロープ渡りなどの体験をしました。実際に現場で使用するホースで放水体験をした親子は、水の勢いに驚きながらもしっかりとホースを握りしめていました。参加者は消防や防火活動について楽しみながら理解を深めました。

8月1日 2台目しっぺいバスお披露目 安全運転で出発進行



▲新しいバスのお披露目式に駆けつけた二之宮保育園の園児たち

市の大型バス「しっぺい2号車」のお披露目式が行われ、二之宮保育園の年長児たちが市長へ安全祈願のしっぺいぬいぐるみを手渡しました。その後園児たちは2号車に初乗車し、保育園へ向かいました。

2号車のデザインは「しっぺい1号車」と左右対称で、磐田の名所や特産品としっぺいが描かれています。これからは2台で、走る広告塔として市内外で磐田市の魅力を発信していきます。

8月11日 「ひと・ほんの庭 にこっと」 笑顔あふれる「にこっと」



▲オープン記念品のオリジナルバッグに楽しくお絵かき

旧豊田図書館を改修した「ひと・ほんの庭 にこっと」のオープン当日、開館前から長蛇の列ができ多くの来場者でにぎわいました。

国府台から家族3人で訪れた半場千尋さんは「広報で見たときからオープンを待っていました。子ども連れでも周りを気にせず利用でき、とても助かります。これからも子どもと一緒に利用していきたいです」と話しました。

写真が動く！
AR動画

ARのマークが付いた写真を専用のアプリを利用して撮影すると、あたかも紙面の写真が動いているかのように動画が再生されます。専用アプリ「ARラボ」は右記2次元バーコードからダウンロードできます。
※アプリのダウンロードや使用にかかる通信料は、利用者負担となります



[iOS用]

[Android用]

8月25日 2018いわた夏まつり花火大会 夜空に輝く大輪の花



▲約3,500発の花火が夜空を彩りました

夏を締めくくる「2018いわた夏まつり花火大会」に約7万8千人が来場し、電子オルガンの音に合わせて打ち上げられる花火を楽しみました。

会場では、来場者にポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)から寄贈されたうちわが配布され、ステージは毎年恒例の「ゆかたペアコンテスト」や「しっぺい音頭」のイベントで盛り上がりました。

8月17日・18日 集めて、学んで、実践する 私が家族のエコ・リーダー

紙すきやエコバッグ作りを通してごみの減量やリサイクルについて学ぶ「あなたが家族のエコ・リーダー教室」がクリーンセンターで開かれました。参加者は事前に集めてきた雑がみを使って紙すきを体験したり、各自で色塗りをしてオリジナルのエコバッグを作ったりしました。最後は紙すきで作った台紙に、家族で決めたごみ減量のための宣言を飾り付けました。



8月4日 下水道たんけん2018 下水道について学んだよ

磐南浄化センターでは、身近にあるのにあまりよく知られていない下水道についてより広く知ってもらうため、親子で参加する「下水道たんけん2018」を開催しました。



参加者は普段入れない浄化センターの地下の管廊を探検し、顕微鏡を使って水中の微生物を観察したり下水道クイズに参加したりしながら、下水道について楽しく学びました。

8月14日 遠州大念仏踊り「蝉しぐれの盆」 遠州に伝わる盆の風物詩

豊岡東交流センターで遠州大念仏踊りと子供念仏が競演する「蝉しぐれの盆」が開催されました。



遠州大念仏は、戦国時代三方ヶ原の合戦の戦死者を弔った念仏踊りがはじまりと伝えられています。

この日は、遠州大念仏3団体と地元子供念仏2団体が念仏を披露し、鉦や笛、太鼓のリズムと念仏の歌が重なり合い哀愁を漂わせました。

8月18日 体験する「磐田能」能講座 見て、聞いて、演じてみよう

「磐田能」の開催を前に、伝統芸能である能楽の歴史と作法について学び、所作や謡を実際に体験してもらおうと、能講座が開かれました。



市民や学生13人の参加者は、公演に出演する金春流能楽師のシテ方 井上貴覚氏、太鼓方 大川典良氏を講師に、グループに分かれ太鼓の演奏や発声のコツ、舞台での動き方などを学んだ後、本物の能舞台でそれぞれの役割を演じました。